

まず！やってみる！新聞

守屋もとのり後援会
2024年7月17日発行
(部内討議資料)
090-5374-1333(守屋)

梅雨の候、いかがお過ごしでしょうか。4月の選挙からすでに3か月を経過しました。初の6月議会も終わり、これから皆様のお声をいただきながら次に備えたいと思います。

6月議会は、新任市長の所信表明演説にはじまり、副市長・教育長の選任、6月補正予算(通常では市長選のある時は当初は骨格予算でこの6月に肉付け予算となります。)審議。私は厚生産業委員会に属しております。6月19日に個人質問に立たせていただき、最初は思いのほか緊張しましたが、①笠岡市の定住施策の方針②まちづくり協議会について③地域おこし協力隊について④ふるさと納税の活用についての4点を質問させていただきました。

市長が交代し、議会と執行部のやり取りが正常化されたと言われていますが、今年度実施予定の事業の多くが財政難を理由に見直しで、目新しい事業はなく、終始ロードマップ作りを強調された議会でした。よく言われます！「金がない時は知恵をだせ！知恵がない時は汗をかけ！」笠岡市のトップとしての想いのこもった市政運営を期待するものです。

(6月議会の質問内容については裏面に掲載しています。)



朝の通学の見守り活動(継続中)

今年1月から辻(東大戸)の交差点に子どもたちの見守りとして立たせていただいています。早いもので半年。ひかりヶ丘と西大戸の小学生、自転車通学の中学生・高校生。子どもたちを見ると元気をもらえます。たまに地域の要望もお聞きする事もあります。私は、朝7時15分ぐらいから45分ぐらいまでの30分は辻の交差点におります。是非、お声掛けください。



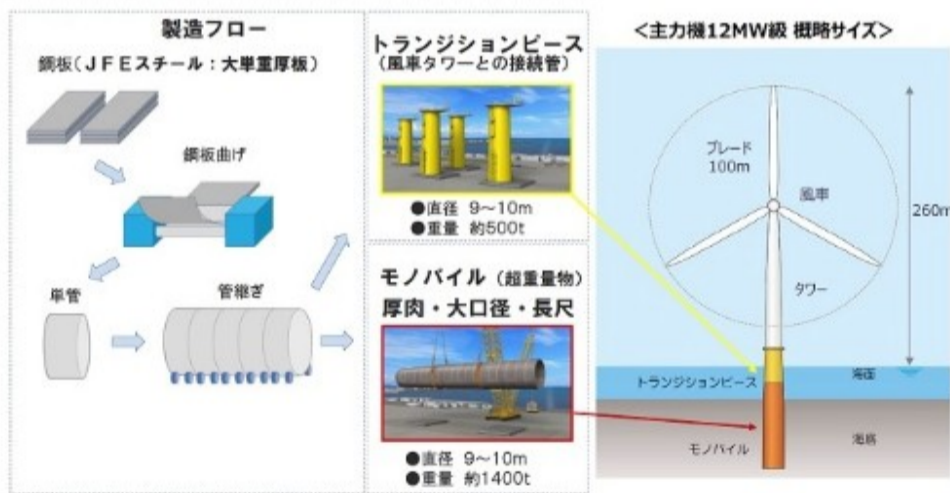
先日、西大戸の子どもたちが何処から通うのかと思って西大戸の集合場所から一緒に通学しました。何と2.2km。毎朝重いランドセルを背負って暑い中の通学本当に大変です。首アイスノン・日傘等工夫して暑さ対策。頑張れ！

農地管理の保全組合立ち上げ(東大戸)

東大戸東谷地区は30世帯ぐらいの地域ですが現在耕作者は5人程度。草刈り等保全管理をされている所や耕作放棄地になって大きな木が生えている所もあります。この度、国の多面的機能支払制度の補助を受けて「おど東谷保全組合」を立ち上げて、耕作放棄地解消の取り組みを進める事になりました。耕作放棄地となっている所は不在地主の土地が殆どで、連絡を取りながら地域で組織を立ち上げることで、今後の農地管理の仕組み作りを行う予定です。



干拓のモノパイル工場視察



7月10日、今春4月に干拓地に完成したJFEのモノパイル工場を市議会として見学させていただきました。モノパイルとは海上風力発電のための風車タワーを支える基礎となる部分の製造工場です。日本初のモノパイル工場がJFEの笠岡分に建設されました。海上風力発電技術は世界から15年ほど遅れていると言われており、工場の中の機械も全て海外製とのこと。厚さ80cmの鉄板を機械で丸めて直系約9mぐらいの円柱を作り、その円柱を溶接で貼り合わせて円パイルを作ります。今は本格稼働に備えて技術者のトレーニングをされており、本格稼働すると約200名の従業員



が必要とのことでした。日本初のモノパイル工場の名前も「笠岡モノパイル製作所」。モノパイルといえば「笠岡」と言われるように今後の動きに目が離せません。

金浦～吹屋(備中トト道トレイル)

とと道「夢街道ルネサンス」「ユネスコ未来遺産」ダブル登録記念「備中とと道トレイル・サミット」

ダブル受賞を記念して7月6日(土)高梁成羽でサミットが開催され、参加させていただきました。足掛け8年の取り組みで関係者の皆様の努力の成果と言えます。このサミットを契機に笠岡・矢掛・井原・高梁の広域連携での取り組みの盛り上げ、そして起点と終点は「日本遺産に認定されており、2つの日本遺産を繋ぐ道」として今後の広域観光行政の取り組みが期待されるものです。

とと道とは、「魚仲仕(うおなかせ)」と呼ばれる運搬役が銅の生産で栄えた吹屋地区に魚を届けるために利用した。岡山県内の矢掛、美星、成羽地区を經由し、約60キロに及ぶもの。





6月議会一般質問

2024年6月19日

6月議会の個人質問を振り返る

私の質問のねらいは住民自治の観点から「選ばれる笠岡づくり」ということで、①笠岡市の定住施策の方針②まちづくり協議会の現状と課題③地域おこし協力隊の成果と課題④ふるさと納税の活用という4点でした。

新しいリーダーとして栗尾市長を選んだわけですから、ただ行政がこれやりますだけでなく、住民として一緒になって笠岡市の発展のために果す役割をリーダーシップをもって示して欲しいというのが私の質問の想いの部分です。

①笠岡市の定住施策の方針について

市長のスタンスを質問しましたが、あくまで行政は基本的なインフラの整備、生活の土台づくりが役割との回答でした。

②まちづくり協議会について

今現在「まちづくり計画」を策定済（24地区中9地区）・策定中（2地区）のところについては専門家も交えて協議が進んでいる所ですが、それ以外の協議会（13地区）については暗中模索の所がいまだにある。地域担当職員もその役割を果していない。発足以来13年も経過するのに今後検討を進めるとの回答。専門家を交えながら方向性を示すことが必要。

③地域おこし協力隊について

そのあり方について検討するため募集を中止しているとの回答でした。市長が交代し、地域や議会にも相談もなく一方的に中止です。

地域の担い手確保が厳しい中、この協力隊制度を活用という意図でしたが、全て見直しの検討材料とするとの回答
私の質問のねらいは、この地域おこし協力隊制度を活用し地域のまちづくり協議会の担い手として活躍してほしい。例えば、都会で頑張っている子どもや孫をUターンさせる仕事として制度を活用し、培った仕事でのスキルをふるさとに活かして欲しい。

④ふるさと納税について

財源を確保するためには大いに活用する必要があるが、本来の寄附と言う目的からお得なカタログ販売の感がある。具体的な寄附目的を明示しての募集を要望。

令和5年のふるさと納税寄附額は、約4億5千万でそのうち1億8千万を基金に組み込む。そして、平成5年度は2億5千万あまりの寄附を11の項目の事業に振り分け支出しています。例えば人気の高い返礼品1位がお米で約60%。しかし、お米を供出する農家への寄附の項目（農業振興等）はなく、答弁ではあえて農業振興と指定して寄附を下さって実施に寄附に積み立てたお金がトータル7万円ほどで、ラジコン草刈り機などに使ったお金が470万円だから寄附者の意志に答えているとの回答でした。

そもそも何のためのふるさと納税なのかという手段と目的が乖離していると言わざる得ません。

シリーズ「まちづくり考」①

私は平成23年まちづくり協議会制度発足時から六島の担当職員としてほぼ毎月六島に通っていました。50人足らずの島ですが、毎月各種役員が集まって意見交換を行っています。昨年7月に担当職員は解任されましたが有志で今も引き続き顔を出しています。

六島のまちづくり協議会事業の秘策は「大学生インターンシップ」でした。1ヶ月間夏休みに大学生を地域で受け入れる事業です。あまりにも人が少なくなりすぎると今更というかあきらめの機運が出てきます。私たち担当職員が色々言っても反応しません。しかし、若い人が地域に入って島のためにやっている姿を目の当たりにすると無視できないんです。これまでに40名程度の学生がインターン生として頑張ってくれました。大学生を40名も受け入れる事が出来る地域ということが事業内容よりもある意味大切な事かもしれません。

- ・他力のまちづくり
- ・インターン受入れ事業こそが「関係人口づくり」

商工会議所の日本遺産会議に！

毎月1回の笠岡商工会議所での日本遺産の定例会議に新人議員としてご案内いただき参加させていただいています。観光・島と言えばつい多くを語ってしまい、島での盛り上がりがいまいちと言って叱られたり・・・（笑）これまでの経験や人脈が役に立つことがあればと積極的に発言すると共に事業実施のメンバーとしての活動をはじめました。市内事業者の方々と関係性構築のためにも大切にしたい会議です。（今後に期待です。）

7月11日の会議で笠岡諸島フォトロゲイニングの設置担当となり、具体的なスポット選定（六島・飛島・高島）を調査し提案します。次回は8月4日作業部会・9日全体会議

今後の予定

- 7月18日 六島まちづくり協議会定例会
- 19日 厚生産業管内視察（バイオガス）
- 20日 尾野寛明講演会
- 21日 大山地区常会
- 25日 飛島愛ランド
- 26日 厚生産業委員会
- 8月 4日 日本遺産作業部会
- 9日 日本遺産全体会
- 13日 大井納涼祭
- 16日 島の盆白石踊・灯籠流
- 23日・24日 議員全国集会（大分）

東大戸大山地区の常会の中で市政報告をさせていただきます。

8月17日よっちゃんれの夜

8月24日花火大会

- （9月議会）
- 9月 2日 9月議会初日
- 11日 代表質問
- 12日 個人質問①
- 13日 個人質問②
- 17日 個人質問③
- 10月2日 最終日

9月議会でも個人質問をさせていただく予定です。ご要望等があればお願いします。

おかげいち盛上げ隊

大仙院の縁日の朝6時から増井住職の法話とラジオ体操を有志で行っています。

そして、8時ごろから境内でマルシェも開催。次回は7月29日（月）8月27日（火）★大祭



後援会ホームページ



【編集後記】

笠岡市職員時代から「ゼネラリスト」と「スペシャリスト」について考えることがよくありました。市の職員は3年程度で異動し、いろんな部署で経験を積む中で「ゼネラリスト」を育成する感じでしょうか。一方、民間事業者やNPOについてはその分野の「スペシャリスト」集団と言えます。多様化する社会に対応するためには行政も「スペシャリスト」の育成も視野に入れ、10年スパンで考える部署も必要になっていると思っています。例えば駅前の都市計画や観光、交通政策の部門が考えられます。職員が力を発揮できる環境づくりが必要だと考えます。そして、私自身、議員として、住民福祉に鑑みて自分の強みは何かと考え結果を出せる仕事を心がけていきたいと考えています。「私にしか出来ない事」